



## 「人生のドア」を開くための「一步踏み出す勇氣」

校長 立部 剛

さる3月15日(火)に、第55回卒業式を挙行し、240名の卒業生が巣立っていきました。その際、式辞として次のような言葉を贈りました。進級を控えた1・2年生に向けたメッセージでもあります。一部を抜粋して掲載します。

そんな素敵なみなさんの旅立ちの日に際し、私から最後の話をします。今日の話のキーワードは、「人生のドア」と「一步踏み出す勇氣」です。

まず、アリスン・マギーさんという作家による『たくさんのドア』という絵本を紹介します。この絵本の冒頭は、次の文で始まっています。

「きょうも あしたも あなたは たくさんのドアを あけていく  
そのむこうに たくさんの あたらしいことが まっている  
あなたは どんなひとになり いったい どこへ いくのだろう  
どうやって こたえを みつけていくのだろう 」



卒業という旅立ち、そして新しいドアを前にしたみなさんにピッタリのフレーズです。そしてもう一つ、みなさんと同じように、人生の転機ことを書いた、あるドイツ人高校生の作文を紹介します。それは次のような文章でした。

「人生にはドアがたくさんあります。ドアの後ろには何があるか分らない。それが怖いと思うかもしれませんが、好奇心を持って、好きなドアを開けてみてください。素敵なことが後ろにあるかもしれません。ドアの後ろに嫌なことがあったら、一步下がって、そのドアを閉めていいですよ。ぜひ、いろいろなドアを開けて、人生でかけがえのない経験をしてください。」

彼女は、失敗を人生の失敗だと感じ、臆病に首をすくめ、現実から逃げたいと考えていました。そんな時、ある英語教師に聞いた「いろいろなドアを開けてみなさい。間違ったら閉めていいですよ。」という言葉は、自分のためらいを素直に受け止め、失敗を肯定的にとらえ、前に進むきっかけとなったのです。一步踏み出す勇氣をもらったのです。当時十七歳であった彼女は、この言葉に背中を押され、古いドアを閉めて、新しいドアである日本への留学に踏み出します。「幸せを探す勇氣をもてた」という彼女の言葉が印象的でした。

私は、今年度最初の四月の全校朝会で、ファーストペンギンの話をしました。覚えていますか。南極に群れで暮らすペンギンたちの中で、天敵がいる、そして冷たい海の中に、思い切って、一番最初に飛び込むペンギンがファーストペンギンでした。このファーストペンギンのように「一步踏み出す勇氣」こそが、人生のドアを開く力となります。不安やためらいを振り払って、みなさんに待っているいろいろなドアを開けてみてください。ドアの向こうには、思った通りの人生が待っていないかもしれませんが、でも大丈夫。悩みや失敗、挫折というハードルの一つ一つが、みなさんの人間性を豊かにし、人生を人生たるものにします。不安は新しい可能性の始まり、自立への第一歩なのです。三寒四温の後に春が訪れるように、新しいドアを開けようとする今の姿は、いつか素晴らしい未来のみなさんの姿になって返ってくると信じています。

今年度も新型コロナウイルス感染症に大きく学校生活が影響を受けた一年でしたが、乗り切ることができそうです。保護者の皆様のご理解やご協力に心から感謝いたします。

## 修学旅行

～3度の延期となりましたが、3月7日から9日に実施できました。～

【1日目】



出発式



仙巖園



鹿屋平和学習



夕食

【2日目】



霧島神宮



マナー講座



学校着



【3日目】



知覧平和祈念館



奄美の里



平川動物園



解散式



## キャリア教育講演会

～3月11日（金）シンガーソングライター宮井紀行氏



あなたは何にでもなれる！どこにチャンスがあるかわからない。時間がかかっても、徐々にいい方向に向かっているのだから、あきらめないでほしい。熱い気持ちが伝わる講演会でした。

## 第55回卒業式

～3月15日（火）晴天 気温25度～



厳かな雰囲気の中、鹿児島市教育委員会、学校運協議会委員の参列のもと、挙行されました。

卒業生の堂々とした姿は、頼もしく、義務教育を終え、新たなステージに進む240人の健闘を願っています。

第54回市春季ソフトテニス大会  
女子団体 優勝  
第7回スポーツタニヤマ旗  
中学校ソフトテニス大会  
2年男子 第三位